

2024年7月実績概要（メモ）

（2024. 8. 22）

誘導品類の定修時期の集中も一段落し、稼働調整が続く中、増産品目が多めとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 399, 300トン

前月比 +11. 4% (+41,000トン)

前年同月比 ▲2. 8% (▲11,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3. 3 %	—
定修要因等	▲ 0. 7 %	▲ 12. 6 %
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 8. 8 %	+ 9. 8 %
生産増減率	+ 11. 4 %	▲ 2. 8 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 77. 8%* → 当月 83. 2% ← 前年同月 76. 4%

定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 1社1プラント ← 前年同月 なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加や定修規模差等から LDPE、PP、塩ビ樹脂、MMA モノマー、EO、EG、SBR、ベンゼンなどの12品目がプラス。BR、トルエン、キシレンなどの5品目はマイナスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因から、LDPE、PS、MMA モノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、トルエンなどの10品目がプラス。HDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、ベンゼン、キシレンなどの7品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増加や定修規模の縮小から、LDPE が大幅な増加となったのをはじめ、HDPE、PP、PS もプラスとなった。

前年比は、定修規模差や稼働率要因等から LDPE、PS はプラス、HDPE、PP はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

消費マインドは、前月に比べては引き続き改善の動きが見られるも、やや足踏みの動きが続いている。国内の生産活動は、7月は2カ月ぶりに上昇予測が出されているとともに生産活動のマインドも前月より上方修正する向きが多くなっている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、供給量の増加も手伝って LDPE、HDPE、PP でプラスとなった。PS は前月の出荷が比較的高めであったこともあり、当月はマイナスに転じた。前年比は、LDPE、HDPE はプラス、PP、PS はマイナスとなった。

分野別の出荷状況としては、LDPE、HDPE、PP とともに包材関係のフィルム分野の出荷が前年に対して増加した。PS の包装分野の出荷は前年比マイナスとなった。

包材以外の分野では、LDPE はラミネート、HDPE の中空成形等の主要の出荷分野が前年比プラスとなったほか、PP は射出成形分野が前月に続いて前年比マイナスとなったが、マイナス幅の縮小が見られた。PS は電機・工業分野が久方ぶりに前年比プラスとなったが、その他の雑貨・産業用分野、FS 分野は前年比マイナスとなった。

ハ) 輸出

原油、ナフサ市況がやや強め基調で推移したが、汎用樹脂の市況はこれに合わせた動きは限られた。

前月は、LDPE は玉繰りがややタイトな面もあったが、当月は LDPE、HDPE、PS でプラス。前年比は、LDPE、HDPE はマイナスだが、PP、PS はプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に大きく減少したが、当月は HDPE、PP は更に減少し、LDPE、PS は微増に留まった。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP は低下し、PS のみは上昇した。在庫水準としては LDPE、HDPE、PP は適正から高め、PS はやや高めとなった。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LDPE	+ 1, 400	3. 5	3. 3
HDPE	▲ 12, 500	3. 8	3. 3
P P	▲ 45, 900	3. 3	3. 0
P S	+ 1, 600	1. 7	1. 9

前月からの修正を*で付記

以上